

「卒業する人々に」
櫻の花ちり／＼にしも
わかれ行く 遠きひとり
と 君もなりなむ
〔春のごぶれ〕
釈 遥空

国学院大学 令和3年3月20日(土・祝) 定期号(毎月20日発行) 1部20円
【発行】国学院大学 【編集】総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目 【電話】03(5466)0130 【FAX】03(5466)0528

祭 儀 ■ 入学奉告祭 4月1日(木) 午前10時 神殿



129期生2544人が巣立ち

学修の成果を

未来灯す光に

国学院大学は、令和2年度(129期生)の大学院学位記授与式を3月19日、渋谷キャンパス百周年記念館記念講堂で、新型コロナウイルスの感染予防策を取ったうえで行った。また、5学部卒業証書・学位記と専攻科・別科の修了証書の各授与式を同日、グランドプリンスホテル新高輪「飛天」(東京都港区)で同様に挙行。

今年度の修了生、所定単位修得退学者、卒業生は合計2544人。内訳は、大学院96人(博士前期課程69人、博士後期課程12人)が修了を迎え、15人が所定単位修得退学者、5学部2411人(文学部806人、経済学部565人、法学部506人、神道文化学部174人、人間開発学部360人)9月卒業を含む)が卒業し、専攻科32人、別科5人がそれぞれ修了する。

コロナ禍で先行きの不透明な社会へ学舎から巣立つ若者たちに向け、針本正行学長をはじめ機関長が「はなむけの言葉」を贈り、129期生の大きな活躍に期待の念を込めた。

一方、3月末で定年退職を迎える教職員は14人。キャンパスでの思い出を振り返り、「惜別の言葉」を寄せた。

新たな自分を

紡ぎ出すことに期待する

学長 針本正行



大学では、単に知識を享受するだけではなく、不断にその知識に疑いを持ち、自身の収集した資料を分析し、検証し、自らの解を提起することが要求されていたことでしょう。卒業を契機に、このかけがえのない学びを体現したことを基に、これから進む新たな環境の中で、自身から課題を提起し、発信し、あらためて現在の自己に挑戦していかなくてはどうか。現在の自分を問い直し、新たな自分を紡ぎ出すことにより、輝く未来へ飛翔できると思われまます。

卒業おめでとうございます。所定の課程を修めて、新たな道へ旅立つ皆さんの輝かしい未来を心から祝福いたします。

皆さんは、平成から令和への御代替わりに立ち会い、また、100年に一度の災禍も経験するなど、歴史の大きな転換に對峙するというかけがえのない学生生活を送りました。学びの方法においても、これまで当たり前としてきた対面による授業形態から遠隔による授業への変更がありました。いつまでこの状態が続くのかとの不安とともに、皆さん自身も学びのあり方を模索していたことでしょう。また、学びの内容においては、対面授業形態においても、遠隔授業形態においても、

さて、従来は、企業に奉仕する「就社型」の人材が求められ、年功序列、終身雇用が保障されてきました。しかし、コロナ禍後の社会では、その人の能力、資質が厳しく問われるようになり、まさに「職」に「就く」という「就職型」の人材が当たり前の時代となるといわれています。だからこそ、コロナ禍の学生生活で経験した中で紡ぎ出され、醸成された人間力は、とても大事なものであり、未来の皆さんの歩む道において、必ずや意義あるものとなるでしょう。

皆さんが、日々、新たな自己を紡ぎ出し、社会人の一人として自己実現を果たされることを期待します。

みはるかすもの

「渋谷の岡に大学たてり」と国学院大学の校歌にある。渋谷は、地形の変化に富んだ街で、地名でもそれはよくわかる。「代官山」「初台」「千駄ヶ谷」「道玄坂」。渋谷駅前から恵比寿駅方面に向かう明治通りは緩やかに下っている。歩いているときは平坦に思える道も、自転車にまたがると傾斜がよくわかる▼今月は東日本大震災からの節目を迎え、誰もがこの10年を振り返っていることだろう▼予期せぬ大災害で社会が一変して10年。新型コロナウイルスに翻弄され、新しい生活様式が求められてから約1年。「やっ」と思う人もいれば、「早いもので」という人もいるだろう。復

興は道半ばという人、癒えない傷を胸に秘める人、今まさにコロナ禍でさまざまな困難に直面している人が多くいることを忘れてはならない▼卒業や修了を迎える皆さんは、学び舎で過ごした時間を振り返り達成感や自信、やり残したことへの後悔の念が胸に去来しているのではないか。社会人になる皆さんの行く手には渋谷の街のような、いやそれ以上の起伏が幾重にも待っているかもしれない。学生生活で得た自信と後悔の気持ちは、次なるステップへ漕ぎ出す原動力になる▼「人生とは自転車のようなものだ。倒れないようにするには走らなければならぬ」とは、ノーベル物理学賞を受賞した世界的な理論物理学者、アインシュタイン博士の言葉である。走りつづける人生はこれだから本番だ▼卒業生、修了生のご多幸を祈念したい。



社会の変化への対応を今後にかけて

国学院大学大学院博士前期課程、博士後期課程を修了された皆さん、所定単位を取得されて退学される方々、おめでとうございます。

本年は、新型コロナウイルス蔓延に伴う社会の変化と、さまざまな制約のなかで、十分な研究成果を挙げられなかったと思う人も多いかもしれません。しかし皆さんは、その制約のなかで努力と工夫を重ねて研究を続けてこられました。この体験は、今後社会が一層変貌するなかで、それに対応できるだけの能力をも育んだと思います。

加えて、本学大学院で修得された学問や知識は、社会の動揺や変貌にかかわらず、地道な研究・教育・文化の発展に大きな役割を果たすでしょう。社会が動揺している時だからこそ、地道な積み重ねが必要なのが基礎的な研究です。皆さんは、資料の丁寧かつ確実な分析によって社会や文化を考察し、新たな成果を見だし、その成果から次の課題や反省を明確にできたはずですよ。今後は自身の研究を顧み、反省を生かして新たな研究や課題に立ち向かうことを心からお祈り申し上げます。

国学院大学大学院の学問は、人文・社会科学系の研究で世に知られており、特に人文科学系における博士学位授与件数は、全国でもトップレベルを維持しています。それは皆さんのように努力を重ねて学位を取得し、社会に進出した諸先輩方の活躍の成果でもあります。皆さんも今後さらに研究を深め、あるいは専門的な知識を活用して社会で活躍され、本学大学院のさらなる発展を支えていただきたいと希望します。

ぜひ今後の社会変貌を見据え、研鑽を重ねてご自身の道を進まれることを願っています。皆さんの発展と健勝を心からお祈りし、贈る言葉に代えさせていただきます。



大学院委員長 根岸 茂夫

新しい時代への創造力に期待します

ご卒業、おめでとうございます。心よりお祝いとお励みの挨拶を贈ります。

新型コロナウイルスパンデミックに直面し、学生生活の最後の1年間、いろいろなことを我慢したり自粛したりすることになりました。就活も大変で、やりたいこともできなかった、なんて不運な学生さん、と感じている人が多いかもしれません。しかも、この感染症の収束にはまだ時間を要するし、皆さんが踏み出す社会も職場も、かつてない需要の急減に対処する新しい事業やテレワークなど働き方改革の模索が続いています。そうした中、社会へと歩み出すことに、強い不安を感じている人も少なくないでしょう。

直面している現実とは、同じです。どの世代にとっても初めて経験する事態で、誰も正解を持っていません。しかも、日本の経済社会は、30年前のバブル経済崩壊以降、長期低迷から脱却できず、新時代への転換が求められてきました。ようやくIoTが広がり、ビッグデータやAIの活用が進み始め、ソサエティ5.0といわれる新時代への転換が展望されています。遅々として進まなかった日本でも、コロナ禍を契機として新しい時代の創造へ突入したのでした。その意味では、学生時代の最後に、私たちが生活し幸せになる上で何が大切なのか、経済社会の欠陥や弱点はどこにあるのかを自由に考えることができた皆さんは、新時代を創造していく上で、大きな強みを持っています。

皆さんの若々しい感性やリスクを恐れぬ行動力が新しい時代を切り開きます。大学で培った力を活かし、お元気に活躍されることを切に願っています。経済学部と院友経済会は、卒業生の学びの場であるビジネス塾を作りました。これからこそ、自分自身が必要とする学びの始まりでもあります。またお会いしましょう。



経済学部長 橋元 秀一

この時期にこそ

ご卒業おめでとうございます。国学院大学での学修を基礎に、これからの人生をさらに充実あるものにしてほしいと願います。

皆さんにとって、この一年、多くの辛酸を嘗められたことと存じます。こうした経験は二度と味わいたくもなければ、思い出したくもないことでしょう。しかし、皆さんのように若くて、将来有望な方々だからこそ、この経験をいつまでも記憶に留めておいてほしいと願います。

こうした経験を通過して、おそらく、誰よりも人の気持ちのわかる卒業生になられたはずですよ。すなわち、誰よりも人の身に寄り添える優しさが得られたものと思います。それは得がたい人生の糧になり、社会で生きていく上でも必要不可欠な宝物になることでしょう。だからこそ、この一年で得た苦労を忘れずにいてほしいと思います。

本居宣長の歌に
世のなかは よごまがこと ゆきかはる 中よそぢの事はなりづる
という道歌があります。世の中は良いこともあれば、良くないことが起こることもあります。そのようなことは、わが国の長い歴史に、また私どもの短い人生においてすら、変わりなくあったことだと思います。古来、吉事と凶事とが移り変わる運動から逃れることはできなかったのです。しかし、ものごとが生まれるのは、決まってそうした移り変わりの中間期である、と宣長は説きます。今はまさに凶事から吉事へと向かうその中間期にあたる、といふべきでしょう。皆さんの経験で得たことと、その間に学んださまざまなこととが、やがて日の目を見ることになりそうです。その日が来るまで、くじけずに頑張ってください。

最後に、本居宣長の道歌をもう一首紹介して、はなむけの言葉といたします。
いつまでか 光かくらむ 久かたの 天のいは戸は ただしはしこそ



神道文化学部長 西岡 和彦

このただよへる国を…

例年であれば、入学式のち明治神宮でじっくり顔合わせのところ、本年度は、いきなりのオンライン授業に突入しました。

「もはや同じ教室で集うことはできない。せめて、同じ『学びの時間』を共有したい…」。そんな思いから、私の授業では、もっぱらライブ配信型で授業を行いました。気分はあたたか、スタジオから語りかけるDJのよう。投稿はがきならぬ皆さんのコメントにリプライしながら、キャッチボール方式で授業を進めました。

「どのような環境でもどこで受講しても、心からの授業と、受ける側の姿勢により、学びはより大きく豊かで、実り多きものとなることをこの授業で学びました。」

皆さんからのこんな応答が、何よりの励みになりました。

夏休みに入って、基礎実習初日、ようやく皆さんと相まみえることができませんでした。フリートークでは、皆さんのどこか躊躇しがちな肉声が、しみじみと心に響きました。

仲秋を迎え、皆さんと石清水八幡宮に赴きました。コロナ禍のただ中、初めての合宿実習です。開講式の緊張感、到底忘れることができません。まことに薄水を踏む日々でしたが、八幡大神のご加護を賜り、全員無事に帰還することができました。ただただ感謝あるのみです。歴史は決してあと戻りしません。この「ただよへる」世界を、あらためていかに「修理固成」していくのか。その至難を極めた課題は、まさに皆さんの双肩にかかっています。いよいよのご健勝、ご活躍を、心から念じ上げてやみません。



専攻科長 武田 秀章



卒業おめでとう

雑談を楽しむ



文学部長 石川 則夫

学生生活の仕上げとなる最終学年は、とうとうオンライン授業に終始してしまいましたね。どのように学びの質を維持したままパソコンを介した授業を行うか、教職員も学生諸君も手探りで試行錯誤した前期から、ようやくこの状況に慣れてきた後期へ、本当に右往左往した1年でした。まあ、オンライン授業の長所を将来へ展開しようという積極的な意見も出されるようになりましたが、平面画像との会話への違和感が拭い去れない人も多かったように感じました。しかし、緊急事態宣言下、不要不急の外出やグループ会食の自粛要請が続く日々が新たな日常になってしまった時、いや応なく気づかされたことは、われわれの日常生活には非日常的な時間を過ごすことがいかに必要だったのかということ。それこそ不要不急で無駄な遊びの時間が、われわれの日常生活を、いや生きていくことそのものを支えていたのだということでした。

つまり、会話や対話というのは単なる音声言語のやりとりだけではなく、身体全体の微細な動きや息遣いなどを体感しつつ心理的に同期する営みでした。われわれは特段の用事もなく、意味のない雑談を楽しんでいるわけです。それは有益な情報交換などではなく、その場に雲散霧消する言葉たちにすぎません。しかし、無駄話をする、おしゃべりする、雑談を楽しむということは、相手との心身の同期をお互いに確かめあうというかけがえない生の営みだったということです。

ご卒業おめでとうございます。皆さんが社会人としての生活に慣れたころには、また雑談を楽しめる社会に戻ることでしょう。どうぞ大学へ、研究室へ雑談を楽しみにお立ち寄りください。

新しい世界における「妥協」と「対話」



法学部長 一木 孝之

ご卒業おめでとうございます。ご入学来の学修の成果に対し、深く敬意を表します。

未曾有の疫病蔓延により、ひととひとのつながりは以前にも増して尊重され、新しいコミュニケーションのあり方が模索され続けています。日本では、出社と残業を前提とする勤務形態から、在宅やテレワークを取り入れた新しい働き方への改革が進むとともに、とかく軽視されてきた家族関係について見直されることになりました。かくして、世界のありようは決定的に変容し、新しい時代が始まります。

そのような中で、社会生活や経済活動における「対話」の重要性は、これまで以上に増しつづけています。物理的な接近が困難な状況では、各人が状況を客観的に観察し、最適な行動について思考すること、そのうえで複数の方針の統合を図り、妥当な協力を確立することが、いっそう求められています。その意味において、「妥協」はむしろ、社会における円滑な行動のための原理とすら言えます。そして、その際に最も大切なのは、冷静で論理的な意見交換であり、話者の技量が成否の鍵となります。

法学部での4年間の学習を通じ、皆さんは、論理的な思考と説得のための修練を重ねてきました。さらに、最終学年において、従来とは決定的に異なる制約の中で、いままでない新しい表現方法の可能性に接近しました。これらは、今後の社会人としての活動にとって重要な能力となるはずです。

皆さんは、時代の最先端に立っています。これからの社会生活では、自分の足場をしっかりと確かめ、前を向き、いまの自分たちでできることを少しずつ進めてください。皆さんのこれからの一歩一歩が、必ず未来を形づくることになるのですから。

大海原へ漕ぎ出す日に



人間開発学部長 成田 信子

ご卒業おめでとうございます。国学院大学を卒業され、大きな海原に旅立っていく皆さんに心から祝意とエールを送ります。

これから船出をしていく社会で皆さんは多くの人に出会い、多くの出来事に遭遇するでしょう。ある時は順風満帆、しかしある時は嵐となるかもしれません。この1年間はコロナ禍という予想もできない事態に見舞われ、日本の社会は多くの変革を求められました。10年前に起こった東日本大震災もそうでしたが、嵐は自らのかわりの外側から突然やってくることもあるのです。

大学という場は、社会において教育、研究を担う公の役割を担っています。その構成員である学生、教職員らが大学という公の場を作り上げていくわけですが、この1年間に起こったことは大学が今まで当たり前としてきた物事を根底から覆しました。例えば授業、学生活動、諸手続きなどについて、学生の皆さんも新しい取り組み方を余儀なくされたことでしょう。外側から強いられられた変化においては負の側面が目立ちますが、実はこれらの諸活動の新しい可能性が開かれたとも考えられます。社会においてもこの度の事態に即応して非接触型のさまざまな活動、流通、催しが模索されています。

この変革時に社会に旅立つ皆さんに、新しい可能性の模索を託したいと思います。日常の中にこそ変革へのポテンシャルはあるはずです。想像力をたくましく、常に予想を超えた事態は起こるものと自覚し、自分の可能性を磨いていってください。ボン・ヴォヤージュ。

卒業おめでとう



別科長 茂木 貞純

別科生の諸君、卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。神社実習を行いながら勉学に励み、所定の単位を修得して神職資格を授与され、晴れて卒業ということになりました。この1年間はコロナ禍の中で、例年とは異なったオンライン授業、社頭奉仕にも厳しい感染予防措置が求められ、大変な1年だったと思います。世界中の人がこれまでに経験のないことに、いや応なく対応を求められました。人生にはこうしたことが起きるということを突き付けられました。平穩な日常の大切さも思い知らされました。

本年は東日本大震災より10年となります。こんな大災害が起こるという現実には驚いたことでした。しかし、長い歴史の中で、私たちの先祖は何度もこうした大災害を乗り越えて、今日の繁栄を築いてきたのです。つらい経験でしたが、明るい未来の基盤にしていきたいものです。

諸君は、これから神職として神明奉仕の生活が始まります。先祖たちは、神威を畏れ慎み、勤勉に田畑を耕すことで、豊作の喜びを手にするのができました。でも台風の影響により、一晩で水泡に帰すことも度々だったのです。神社神道の底流には、神威を畏れ慎む心が生きています。百年前、五百年前の人も同じ心であつたのです。

新しい門出に際し、皆さんの人生が充実して素晴らしいものとなるよう、心から祈っています。同時に長い人生の間には、さまざまな試練も常にあることを覚悟しておきたいと思えます。神明照覧のもと、明るい輝かしい未来になりますよう重ねて祈り、はなむけの言葉とします。



惜別の言葉

キャンパスと別れの時

退職教職員から惜別の言葉

この3月をもって本学を去る方々の中から、定年退職を迎えた14人の教職員に、学生、教職員への「惜別の言葉」を寄せてもらった。

国学院大学の思いで

文学部教授 青木豊



国学院大学への入学が決まり18歳で上京し、4年間の学生期間を入れますと52年間、国学院大学にいたこととなります。その間、博物館の授業を兼務しながら29年間は考古学資料館(現博物館)の学芸員として、調査三昧の日々を送らせていただきました。

文学部に移籍後の19年の間で、印象深いことは「文部科学省のGP」の採択と、大学院での博物館学コースの開設です。これにより、博物館界では“博物館学の国学院”が再認識されたと思います。

人生は、諄々と諦めてゆく過程であるとも言われますが、資料収集という物欲の煩悩の火を今少し燃やし続け、今後残された期間を細々とでも研究を続けることが巧みに老いる術と思っています。

学生・大学院生諸君には、この不確実な時代を切り開き、より良い未来の構築をお願いいたします。健全な社会を維持するには、博物館が必要であると常にお考えください。

最後に国学院大学の発展と、教職員諸氏のご健勝を祈念いたします。

人文社会科学系の標となる大学へ

文学部教授(特別専任) 赤井益久



学生時代から数えれば40年に及ぶ大学生活も一区切りを付ける時になりました。これまで多くの役職を経験してきましたが、その都度、苦勞を共にし、支えていただきました多くの教職員の皆さまには心より感謝申し上げます。ありがとうございました。中でも、たまプラーザキャンパス移転に際しての苦難、文学部・経済学部における学部改組の奮闘、神道文化学部や人間開発学部の設置の興奮、渋谷キャンパス4学部一極集中の苦心、どれをとっても大学発展上、忘れられない思い出です。

国学院大学には他大学にはない個性と特性があります。その個性を旗幟鮮明に維持し、特性をいよいよ発揮され、法人全体が一つの教育目標に向かい、中長期計画に基づき、事業計画を忠実に実行し、教職員が丸となって「人文社会科学系の標となる大学」へ、これからも邁進していただきたいと念願しています。長い間まことにありがとうございました。

国学院大学 院友会

へようこそ！

国学院大学の同窓会

国学院大学の卒業生は、「院友」と称され、一般財団法人国学院大学院友会(吉田茂穂会長)昭和40卒・73期政経、昭和



母校と卒業生をつなぐホームカミングデー。令和2年度はオンラインで実施された。

41修・74期神専攻)の会員となります。令和3年3月1日現在、院友の総数は15万5千人を超えています。また、全ての都道府県に支部があり、合計59支部を数えます。他に学術関係、マスコミ関係、経済学部関係、法学部関係と職域などに分かれた4つの協力団体もあります。

本会の活動は、母校の設立趣旨を発揮し、本会の発展と本学の隆昌に寄与することを目的としています。これらを達成するため、本部では各種講座、講演会、コンサートなどを主催し、全国の各支部でも公益事業などを展開しています。また、同窓会報である「院友会報」の発行、院友相互の交流を深める「院友大会」や「新年院友交歓会」を行っています。さらに、院友の活動拠点となる「院友会館」の運営も行っています。

本会の活動などは、院友会HP (<https://www.kokugakuin.or.jp/>) やTwitterをご覧ください。

院友会事務局 (☎03・3400・7781)

国学院大学院友会の歩み

明治20年「水穂会」結成が原点

●創設の頃

明治15年に国学院大学の母体・皇典講究所が設立され、20年にその卒業生が「水穂会」を結成したのが院友会の原点です。23年に「国学院」が皇典講究所の教育機関として設置され、27年にその卒業生によって「水穂会」とは別に「院友会」が組織されました。その後、2つの会が共に活動するようになり、神職関係の「教友会」も昭和7年に加わり、「院友会」として統一されています。

●院友会館と財団法人の設立

院友の団結は他大学に類を見ないほどで、各地・職域で活発な活動が続けられました。昭和6年には大学に隣接した現在地に1093平方メートルの土地を求め、組織も財団法人となり、7年には初代会長・宮西惟助氏の推進によって「院友会

●地域発展の使命を

新しい会館の完成とともに、全国の院友の間に組織の強化・活動の活性化への新たな息吹がみなぎり始めました。会館は、院友の活動拠点としてのみならず、学術・文化・芸術活動の場としても利用され、若い世代の会員の協力により、本会が飛躍発展する機運が興り始めまし

惜別の言葉

コロナ禍の1年を無事にくぐり抜け、ようやくゴールにたどり着いた。月並みであるが、よく頑張ったと自分を褒めてやりたい。別れの言葉に代えて、最後の成績評価について書いておきたい。一方的な遠隔授業だったので、学生に毎回課題提出を課した。忙しさにかこつけて後回しにして、結局、最後の採点の際に全部読むことになった。



読み続けるうちに、小まめに調べながら書いてくる課題に合う。読みながら、自分の授業が見えてくるようだった。得心と反省のないまぜの思いで読むのは楽しかった。こんなふうに授業をしてこなかったこれまでの反省とともに、今後の指針を与えられた気がする。「教育は共有」という言葉があるが、まさしく共有の1年だったともいえる。退職を迎えて救われた思いで、少し遅れたが評価を提出した。暗い話題の多かったコロナ禍の中で、明るい話題の一つだった。すばらしい共有をくれた君に、一度も対面できなかった君に、幸いあれかしと願う。

別れの言葉

文学部教授 花部英雄

専任として33年勤務した。その前2年間兼任講師を勤め、学生として9年間在籍していたので、人生の3分の2近くを国学院大学で過ごしたことになる。



学生の頃は大学紛争で、大学がロックアウトになるなど騒然とした時代だったが、薄暗い大学図書館の貴重な資料には目をみはった。当時コピーは1枚30円で、立喰い蕎麦1杯と同値段だったから、図書館に籠もり必要な資料をひたすら原稿用紙に筆写した。院生の頃には週の半分を古文書の調査や整理のアルバイトで過ごし、こうした経験がのちに基礎知識となった。

専任となった頃、研究室は今より狭く相部屋だったが、学科の教員同士が集う場所もあり、また学生たちとも接しやすい環境にあった。また当時の教員はもっと緩やかに時間が過ぎた。いつの頃から教員は、書類と時間に追われるようになったのだろう。今後大学と教員、そして学生は、どのように変わるのだろうか。

50年前から大学とともに

文学部教授 根岸茂夫

平成16年4月に国学院大学法科大学院が新設され、弁護士の私は実務家教員の一人として同年10月に同法科大学院に着任しました。その後平成30年3月末に同法科大学院が廃止され、法学部の教員の一人に加えていただきました。



私の多くの授業では、リサーチ&ライティングを試みました。私が弁護士として体験した事件を基に事例を作成し、学生は事例の解決に適切な法律や判例を調べその成果をレポートとして提出。私はレポートにコメントを付して返却し、授業で徹底して議論を行いました。生きた事件の中で法律や判例の役割を学生と教員が共に学ぶ授業を試みました。レポートにコメントを付していたら朝になったこともよくありました。私と同郷の名駅伝ランナー・浦野雄平さんのスピードにははるかに及びませんが、学生と共に駆け抜けた16年半、それが私の教員生活の実感です。人生後半の大きな生きがいを与えていただき、本当にありがとうございました!!

学生と共に駆け抜けた16年半

法学部教授(特別専任) 村和男

30年間、国学院大学で教鞭を執らせていただきました。同僚の先生方、職員の皆さま、学生さんのご理解、ご支援、ご協力でなんとか仕事を全うすることができました。心から感謝申し上げます。英語、英語学を担当してきましたが、横文字、横書き一辺倒の世界から、縦書き、難しい漢字の世界に迷い込んで、少々当惑しました。なにしろ『國學院雑誌』が横書きを認めなかった時代です。初めて縦書きの論文を書いたのが『國學院雑誌』でした。国学院ほど日本そのものを感じることができる環境はありません。おかげで少しバランスの取れた人間に成長したような気がします。



僭越ながら皆さんに申し上げたいことは、「視線を高く持つ」ことです。下を見てはいけません。視線が高いと遠くまで広く見渡せます。普段見えない世界も見えてきます。自分がかかわる地平が広がります。それが無限の可能性につながると思います。

視線を高く

文学部教授 野呂健

「国学院大学学報」購読のご案内

本学の機関紙を定期購読してみませんか?

「国学院大学学報」は、本学の学生・院友・教職員の活躍や、本学のニュースをお届けする機関紙(年11回発行、8月は休刊)です。

年間購読料は500円(税込み・送料含む)。また、感想などもはがき・封書・FAX・Eメールにて随時募集しております。卒業を迎える皆さまで、購読ご希望の方は、広報課までご連絡ください。



お問い合わせ先

国学院大学総合企画部広報課
〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28
[電話] 03・5466・0130 (直通)
[FAX] 03・5466・0528
[メール] kouho@kokugakuin.ac.jp
[HP] https://www.kokugakuin.ac.jp/




院友会館

た。さらに、国際交流や学術・文化教育への振興・助成活動に力を注ぐ計画も準備、母校の発展に加え地域の発展にも資する使命を發揮しています。

●「一般財団法人国学院大学院友会」へ移行
平成18年5月に公益法人制度改革関連3法が成立したことにより、新しい制度に移行すべく『定款』(法人の基本規則)を作成、24年6月15日に内閣府への

恒例の院友大会は延期に

院友会では、新卒業生・修了生がキャンパスに集う機会として毎年5月に院友大会を開催しています。今年度は、新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため秋以降に延期となりました。今後の情報は院友会HP、Twitter、院友会報で順次公開します。



令和元年度の院友大会の様子

移行認可申請を行いました。その後、9月19日付で内閣府から許可証が交付され、10月1日付で「一般財団法人国学院大学院友会」の登記を行い、新たな組織として再スタートしました。

惜別の言葉

私は昭和50年4月、文学部神道学科に入学しました。入学式翌日から、3泊4日の新入生八王子合宿(オリエンテーション)に参加することが必須の学科でした。当時、本学所有の八王子キャンパスにある女子寮に泊まり込み、早朝マラソン、朝拝夕拝、体育館での大祓詞奏上、さまざまな講義が続きました。



珠玉の言葉
— 学術メディアセンター事務部図書館事務課書記 浅田 則子

宗教学担当の戸田義雄先生が、新入生歓迎の特別講義をしてくださったのを覚えています。オリエンテーション、オリエンテーションなどの語幹oriは、①教会の主祭壇が東に、正面入口が西に位置するように建てること②死者を、足が東に向くよう埋葬すること—という意味があることを知りました。オリエンテーションとは、自己の体軸が特定方向に向くように体位を定めること。生死を通して心をどこに向けるか決断をすること。46年経っても覚えているこの言葉は、定年後も私を導いてくれることでしょう。

珠玉のような言葉や教授に出会えた大学時代に感謝しています。

昭和53年、母校である国学院大学へ奉職し、以来43年の月日が流れました。在学期間から数えると47年間。約半世紀にわたって渋谷キャンパスに通い続けたのかと思うと、感慨深いものがあります。



約半世紀 支えてくださった皆さまに感謝
— 総合企画部エクステンション事業課主幹 杉本 久男

最初に配属されたのは学生課(現在の学生生活課)、その後は会計課や法科大学院事務課など6部署を渡り歩いたこととなります。学生時代から野球一筋だった私は奉職後、教職員野球部に入り、同僚と汗を流したこともよい思い出です。野球しか取り柄のない私を支えてくださった役教職員の皆さまに、この場を借りて感謝申し上げます。

今年、卒業される4年生はちょうど私とは入れ替えて社会という海原に漕ぎ出すわけです。時には難破しかけることもあるかもしれません。その苦難を乗り越えるためには、かけがえのない友人や同僚の存在が欠かせませんし、時には、人に誇れる特技や趣味が助けになるのかもしれない。皆さまのこれから始まる長い航海の無事を、陰ながらお祈りいたします。

今は隔年で開催される法人対抗ソフトボール大会が理事長杯争奪野球大会として行われていた平成9年10月に奉職しました。同時に教職員野球部に入部するように勧められ、11月に相模原グラウンド野球場で開催された野球大会に参加することになりました。



国学院大学に感謝
— たまプラーザ事務部たまプラーザ事務課主査(技師) 曾根田 勉

それまで、名前と顔が一致する教職員は管財課員ぐらいしかいなかった私がいきなり40人以上の教職員と、法人傘下の方々を合わせれば100人以上の方とお会いできたことはとても幸いでした。

私は、職務柄各課に呼ばれて行くことが多く、その都度、年齢の割には頑張っていたねと声を掛けられることも多く、野球部での出会いのおかげで分からないことばかりの私に、いろいろなアドバイスをいただきとても助けられました。

その後、設備管理に必要な資格も何とか取得し管財課で11年、たまプラーザ事務課で12年と仕事をさせていただいたことに、心より感謝申し上げます。

43年前、国語学資料室の室員として、学生の頃の心地よい居場所であった資料室で、お世話になった先生方の身近で働くことになりました。勤務終了後、先生の下に集まる学生の勉強会に参加させていただき、時には夜遅くまで研究室で、時には研究室から渋谷の街に移動して過ごした日々は、忘れられない思い出です。



見はるかすもの
みな清らなる…
— 教学事務部教育開発推進機構事務課主査 高橋 和枝

資料室から事務局に異動した当初、障がいのある学生の学修支援を担当することになりました。主に聴覚に障がいのある学生へのノートテイク支援については、支援を受ける学生と支援をする学生とともに試行錯誤しながら、支援態勢を作り上げていきました。ある一人の聴覚障がいのある学生の熱意と当時のノートテイクの熱意は、現在のノートテイク支援に確実に受け継がれていると思っています。

今後は、学生団体「森木会」主催の間伐現場、岩手県紫波町の森で学生の皆さまとお会いできるのを楽しみにしています。すべての皆さま、ありがとうございました。

新卒業・修了生の資格取得人数

令和2年度卒業・修了生(9月卒業含む)のうち、各種資格を取得した人数は次の通り。
◇神職▽明階検定合格・授与21人(学部・大学院)▽明階検定合格・正階授与126人(専攻科・学部)▽正階検定合格・授与4人
(別科神道専修Ⅱ類)▽権正階検定合格・授与1人(別科神道専修Ⅰ類)◇博物館学芸員124人(学部)◇社会教育主事11人(学部)◇図書館司書68人(学部)◇学校図書館司書教諭19人(学部)◇教職▽高校一種374人(学部)▽中学一種289人(学部)▽小学校一種128人(学部)▽幼稚園教諭一種115人(学部)▽保育士81人(学部)▽中学専修14人(大学院)▽高校専修14人(大学院)

若木育成会が成績優秀者表彰

若木育成会(堀江久教会)は、令和2年度卒業・修了生で優秀な成績を修めた次の学生を表彰する(敬称略)。※は3年次卒業
◇文学部▽木村規高(外文)、出口颯涼(史)◇経済学部▽森舞子(経ネ)、湯浅里菜(経営)◇法学部▽井関祥太郎、竹嶋夢希、赤間大晟※、湯澤蓮※◇神道文化学部▽杉浦みどり、
菱谷壬◇人間開発学部▽青木貴明(初教)、横関南々帆(同)◇専攻科神道学専攻▽小川修太◇別科神道専修▽林千愛(別科Ⅱ)

神社界からの表彰

神職課程に学び、成績優秀な令和2年度卒業・修了生に対して神社界から次の各賞が贈られる(敬称略)。
◇神宮大司賞▽小川修太(神専攻)▽岩堀まゆ(神文)▽杉浦みどり(同)
◇神社本庁統理賞▽渡部崇人(神専攻)▽吉田絢香(神文)▽牛久保仁美(同)▽林千愛(別科Ⅱ)
◇東京都神社庁長賞▽眞壁郁恵(神専攻)▽木村肇(神文)▽神光輝紀(同)▽増渕大祐(別科Ⅰ)

「卒業おめでとう」が届きます

大学院の新修了生・所定単位取得退学者には、国学院大学から「オリジナル図書カード」と「オリジナル一筆箋」、5学部・専攻科
・別科の新卒業生・修了生には、本学から「オリジナルペンケース」、若木育成会からは、「オリジナル名刺入れ」を贈ります。



教職員人事

◆退職
◎文学部◇教授▽青木豊▽根岸茂夫▽野呂健▽花部英雄◇教授(特別専任)▽赤井益久◇法学部◇教授(特別専任)▽村和男◇助手▽渡辺礼子◎神道文化学部◇教授▽茂木栄◎人間開発学部◇教授▽神長美津子▽一正孝◎大学事務局◇専任▽杉本久男(総合企画部エクステンション事業課主幹)
◆自己都合
◎文学部◇教授▽山岡敬和◎経済学部◇教授▽本田一成◎研究開発推進機構◇助教(特別専任)▽高野裕基◎教育開発推進機構◇助教(特別専任)▽佐藤紀子◎大学事務局◇専任▽柴田克之(教学事務部教職担当)

◆定年
◎文学部◇教授▽青木豊▽根岸茂夫▽野呂健▽花部英雄◇教授(特別専任)▽赤井益久◇法学部◇教授(特別専任)▽村和男◇助手▽渡辺礼子◎神道文化学部◇教授▽茂木栄◎人間開発学部◇教授▽神長美津子▽一正孝◎大学事務局◇専任▽杉本久男(総合企画部エクステンション事業課主幹)
◆任期満了
◎人間開発学部◇助手▽渡邊奈々◎大学事務局◇嘱託▽星美由紀(たまプラーザ事務部たまプラーザ事務課)
以上、令和3年3月31日付

インフォダイジェスト

校 友 課

◎住所変更したら連絡を

卒業後に住所・氏名・電話番号・メールアドレス・勤務先などに変更があった場合は、はがき・メール・電話・FAXまたは国学院大学HP（卒業生⇒住所変更などのご連絡）で校友課に連絡をお願いいたします。

◎各種調査・個人情報について

本学が電話・郵便物などで院友の皆さまの個人情報について調査する場合は、「渋谷キャンパス住所および国学院大学校友課名」で実施し、返送先・連絡先は校友課となります。また各種発送物が届出住所に配達できない場合、校友課および院友会から電話にてお問い合わせする場合がございます。郵便物・電話などで不審な点がございましたら回答せず、校友課までお問い合わせください。なお、本学では卒業生名簿の作成・販売・閲覧サービスは行っておりません。

☎校友課

(☎03・5466・0131、☎03・5466・0185、
✉soumu-kouyu@kokugakuin.ac.jp)

学 生 生 活 課

◎日本学生支援機構奨学金を返還する方へ

日本学生支援機構（JASSO）奨学金の貸与者は、次の要領で返還を円滑に行ってください。

- ①住所・氏名・勤務先・連帯保証人などに変更があった場合は、速やかにJASSOへ連絡してください。その際は奨学生番号が必要となりますので、「返還確認票」「返還のてびき」を大切に保管してください。
- ②返還困難な状況が生じた場合、JASSOに減額返還や返還期限猶予を願い出すことができますのでJASSOに相談してください。

☎日本学生支援機構奨学金相談センター

(☎0570・666・301〈ナビダイヤル〉)

就 職 担 当 3 課 (キャリアサポート課・教職センター・たまプラーザ事務課)

◎卒業後ご協力を、進路未定者は相談を

新卒業生の皆さんには、進路の別を問わずに学生の就職活動支援（OB・OG訪問など）にご協力をお願いします。また、進路未決定の方には継続して相談に応じますので、お気軽にご利用ください。

☎キャリアサポート課 (☎03・5466・0151)

教職センター (☎03・5466・0152)

たまプラーザ事務課 (☎045・904・7704)

教 務 課

◎証明書の発行方法

各種証明書の発行方法は、①学内の証明書自動発行機（在学当時の学籍番号とパスワードによる）②郵送③窓口④コンビニエンスストア発行の4通りです。①は即時発行、②③は原則として申請日から5業務日後（長期休暇前後は、さらに時間を要します）の発行、④については本学HP（卒業生⇒証明書発行）に詳細を掲載しています。英文証明書は約1週間後の発行となります。

※申請時には身分証明書（健康保険証や運転免許証など）が必要となります。氏名などに変更があった場合は申請時に戸籍抄本を添えてください

料各証明書とも1通500円（英文証明書は500円、郵送希望の場合は別途送料）、コンビニ発行は和文・英文証明書とも600円

☎教務課 (☎03・5466・0137)

たまプラーザ事務課 (☎045・904・7703)

◎卒業論文の返却

各指導教員から返却を受けてください。

エクステンション事業課

◎オープンカレッジを開講しています

国学院大学のオープンカレッジはどなたでも受講できる、大学の特色を生かした公開講座です。神道、文学、歴史などの講座を多数ご用意しています。

令和2年度は新型コロナウイルスの影響で全講座中止となりましたが、3年度は受講者の安全を考慮し対面での開講は行わず、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を利用した21のオンライン講座を開きま

す。院友の方には入会金の割引特典があります。ぜひこの機会に大学ホームページからパンフレットをご請求ください。

☎エクステンション事業課 (☎03・5466・0270)

図 書 館

◎卒業後も図書館を利用できます

卒業後も渋谷・たまプラーザ両キャンパスの図書館が利用（館内での閲覧、館外貸出、文献複写）できます。貸出冊数は和・洋書ともに5冊、日数は14日間です。遠方にお住まいの方で文献複写が必要な場合は、文書による申し込みもできます。

図書館カウンターで申し込むと、翌年4月末まで有効の「図書館利用者カード」（両館で使用可）を発行します。

☎図書館事務課 (☎03・5466・0159)

※カード発行には、運転免許証など現住所が確認できる身分証明書が必要です

人 事 課

◎格安料金で自然を満喫 厚生寮をご利用ください

国学院大学では、卒業生に対して厚生寮を格安料金で開放しています。

▶叢隠寮（神奈川県箱根町）

叢隠寮は故折口信夫（釈道空）博士の別荘であった叢隠居を昭和33年に大学が譲り受け、これを保存するとともに宿泊施設を増築しました。寮には良質な温泉もあり、四季折々に変化する自然の中にある快適な保養所となっています。平成30年度に全面的な改築工事を行いました=写真。



料1泊2食付き9000円（入湯税含む）

※チェックイン15時、チェックアウト10時

☎利用日の1カ月前から人事課 (☎03・5466・0105) で受け付けます。受け付け後に利用案内・申込書を送付します。詳細は本学HPでも案内しています。

▶蓼科寮（長野県立科町）

蓼科高原にあり、夏は近くにある御泉水自然園の散策、冬はスキーと四季折々の自然を満喫できます。また、敷地内にはバーベキュー棟もあり、多人数で楽しめます。

料1泊2食付き4000円（冬期は暖房費が別途加算）

※チェックイン15時、チェックアウト10時

☎利用日の3週間前から人事課 (☎03・5466・0105) で受け付けます。受け付け後に利用案内・申込書を送付します。詳細は本学HPでも案内しています。

総 務 課

◎広くご寄付を募っています

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性ある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っています。本法人に対するご寄付は、専用紙による申し込みとインターネット上でクレジットカード決済による申し込みが可能です。利用可能なクレジットカードは、VISA、MasterCardの2種類です。

募集するご寄付の種類は、「学生・生徒等の奨学基金」「学生・生徒等の活動支援」などに加え、学生の課外活動を支援するために役立てられる「課外活動支援（スポーツ強化部会など）」や「メッセージ募金」を設けています。「メッセージ募金」は、スポーツ活動や課外活動などに熱心に取り組んでいる在学生や本学に向け、本学HPからメッセージを投稿してもらおう仕組みです。ワンコイン（500円）からご寄付が可能です。メッセージはそのままHPに公開されます（匿名可）。ぜひ後輩にエールをお寄せください。

各種募金に関する情報は、本学HP (<http://kifu.kokugakuin.ac.jp/>) で閲覧できます。

◎税制上の優遇措置

本法人への指定寄付金は、次の通り税制上の優遇措置を受けることができます。

個人＝個人所得税については、特定公益増進法人への寄付金としての「所得控除」、または一定

要件を満たした学校法人などへの寄付金としての「税額控除」のうち、いずれかの税制を寄付者が選択し、確定申告を行うことで所得税が減免されます。なお、多くの場合「税額控除」を選択すると減免が大きくなります。個人住民税については、お住まいの自治体が条例により本法人への寄付を税額控除の対象と指定している場合に限り、確定申告を行うことで住民税が減免されます。

法人＝特定公益増進法人に対する寄付金として扱われ、所定の計算式に基づく限度額まで該当事業年度の損金に算入することができます。寄付金の申し込みと納付が確認できたら、本法人発行の領収書と文部科学省発行の証明書をお送りしますので、確定申告などの税務手続きを行ってください。

◎受配者指定寄付金

日本私立学校振興・共済事業団が取り扱う制度で、この制度を利用して私立学校へ寄付をした企業等法人は、法人税法上、支出した寄付金の全額を損金の額に算入することが認められています。

◎遺贈による寄付制度

「遺贈による寄付」とは、院友・在学生の父母・教職員・一般篤志家が保有されている資産の一部を、将来遺贈の形で寄付していただき、本法人の教育研究活動のより一層の充実発展のために支援をいただく制度です。

本法人では、この制度を実施するにあたり、三井住友信託銀行と協定を結んでいます。本制度の利用を希望される場合は、総務課または最寄りの三井住友信託銀行までご一報ください。

☎総務課寄付金担当 (☎03・5466・0111)

入 学 課

◎院友子弟等特別選考のご案内

国学院大学では、院友の子弟らを対象とした「院友子弟等特別選考」を実施しています。

本選考は、本学の学部、大学院、専攻科、別科などを卒業・修了された方の2親等以内の親族（配偶者、姻族を含む）であることが出願資格の1つとなります。その他の出願資格の詳細は、毎年5月下旬ごろに発行する「入試情報ガイドブック」に掲載しています。本学HP (<https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/documentrequest>) からご請求ください。本学への進学を希望する親族の方がいらっしゃいましたら、本選考をご案内ください。

☎入学課 (☎03・5466・0141)

国 学 院 大 学 生 協

◎卒業アルバムの購入受け付け中

大学生協では現在、卒業アルバムの購入を受け付け中です。先にお送りした郵便振替用紙（渋谷・たまプラーザ店舗でも配布中）か郵便局備え付けの郵便振替用紙をご利用いただき、通信欄に、学部・学科・学籍番号・郵送先住所を明記の上、郵便局の窓口でお振り込みください。5月7日(金)までお振り込みを受け付け、10月ごろの発送になります。

※保護者が購入された場合、「卒業生本人が写っていない」と連絡が寄せられることがあります。写真撮影をされているか確認した上でお申し込みください

料1万3500円（消費税・送料込み）

☎振込先（加入者名）・口座番号＝国学院大学生生活協同組合・00150-6-501528

◎オリジナルスイーツや人気グッズはいかが？

大学生協では、オリジナルスイーツの「国学院どらやき」（1550円）とコロパンとの企画による「国学院クッキー」（18枚入1080円、33枚入2160円）や、ぬいぐるみをはじめとした大学マスコット「こくびょん」グッズ、ブルゾンやキャップなどの本学オリジナルグッズを販売しています。配送も承っています。



左から、国学院どらやき、「こくびょん」グッズ、国学院クッキー

☎国学院大学生生活協同組合 (☎03・5466・0169 または<https://www.kgucoop.or.jp>)